

令和3年度病害虫発生予察注意報第3号

令和3年6月25日
愛知県

作物名：カンキツ
病害虫名：チャノキイロアザミウマ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

6月下旬に行った、ほ場周囲における本種の生息数調査において、ウンシュウミカン22ほ場のイヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数は6.8頭（平年14.5頭、前年14.0頭）で平年並であった。

しかし、カンキツほ場（南知多町、蒲郡市）に設置した黄色粘着トラップにおける本種成虫の誘殺数は、6月第2半旬から第4半旬までの合計で、南知多町では395頭（平年59.8頭、前年133頭）、蒲郡市では451頭（平年126.3頭、前年166頭）と**いずれも過去10年間で最も多い**（図1）。

今後、世代を重ねながら個体数が増え、果実への寄生も増加すると考えられるため注意が必要である。

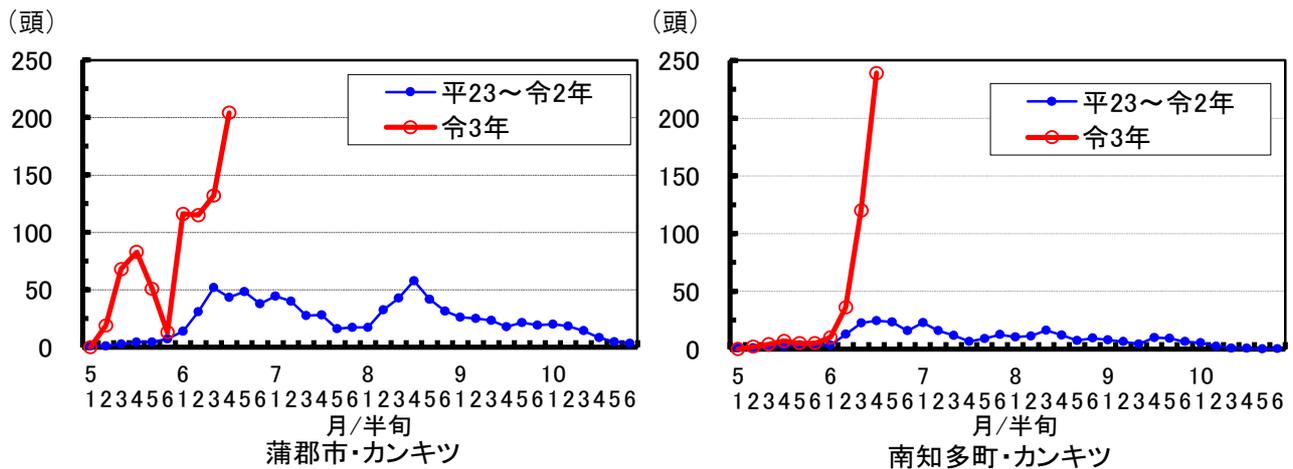


図1 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫誘殺状況

4 防除上注意すべき事項

- (1) ウンシュウミカンでは、本種が6月から7月に加害すると、果梗部に灰色～灰褐色のリング状の傷が生じる（図3）。



図2 チャノキイロアザミウマ成虫



図3 被害果

(2) 防除適期である成虫の発生ピーク予測日（表1）に防除を実施する。

今後、日平均気温が平年より高く推移すると、ピーク予測日が早まる可能性があるため、最新の病害虫発生予報等も参考に防除日を設定する（病害虫発生予報はホームページ「あいち病害虫情報」<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>に掲載）。

防除にあたっては、表2を参考にIRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避ける。

(3) 本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサンゴジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が存在するほ場では被害を受けやすい。このため、周辺の寄主植物の発生状況にも注意する。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（6月25日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/14	6/11	6/8	6/8	6/12	6/12	6/9	6/10	6/15	6/10	第1世代 6/8
第3世代	7/6	7/5	7/1	6/30	7/5	7/6	7/2	7/3	7/8	7/3	第2世代 7/8
(前年)	7/7	7/6	7/2	7/2	7/7	7/8	7/6	7/6	7/10	7/5	(前年) 7/8
前年差	1日早	1日早	1日早	2日早	2日早	2日早	4日早	3日早	2日早	2日早	前年差 ±0
第4世代	7/25	7/24	7/20	7/21	7/25	7/25	7/22	7/24	7/27	7/23	第3世代 7/31

各地のアメダス平均気温から予測。

6月24日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

前年の第3世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

表2 かんきつのチャノキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	使用回数	IRACコード
アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	ニテンピラム	収穫7日前まで	3回以内	4A
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B
コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫前日まで	2回以内	13
ディアナWDG	スピネトラム	収穫前日まで	2回以内	5

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2020/mechanism_irac02.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471